

【講演講師プロフィール】

あさ さき いく え
朝 崎 郁 恵

1935年11月11日

鹿児島県大島郡瀬戸内町

加計呂麻(カケロマ)島・花富生まれ。



奄美諸島で古くから唄い継がれてきた奄美島唄の唄者。

島唄の研究に情熱を傾けた父・辰怒（たつじょ）の影響を受け、また、不世出の唄者と謳われる福島幸義に師事し、10代にして天才唄者といわれた天性の素質を磨きかける。千年、あるいはそれ以上前から唄われてきたともいわれる奄美島唄の伝統を守り、その魂を揺さぶる声、深い言霊は、世代や人種を超えて多くの人々に感動を届けている。

ニューヨーク・カーネギーホール、ロサンゼルス、キューバなどの海外公演、国内では国立劇場10年連続公演等、数々の大舞台を踏んできたが、1997年に発表した初のピアノと奄美島唄のコラボレーションCD「海美(あまみ)」が、ラジオで細野晴臣氏により紹介され、世に広く注目を浴びることとなる。

2002年、「うたばうたゆん」67歳でメジャーデビュー。以降「うたあしいび」（2003年）、「おぼくり」（2005年）、「シマユムタ」（2006年）、「おぼくり～ええうみ」（2008年）など作品を次々に発表、NHK大河ドラマ「篤姫」の音楽を担当した吉俣良、坂本龍一、UA、ゴンチチ、上妻宏光、姫神など数多くのアーティストと共演してきた。

2009年、NHK大河ドラマ「篤姫」劇中曲（作曲：吉俣良）に、初めて共通語による歌詞で歌う「阿母（あんま）」（作詞：UA）を含むアルバムを発表。

2010年、「13人のグランドマザー」第8回 世界会議に参加。

2011年4月より放送中の、NHK BSプレミアム番組「新日本風土記」のテーマ曲「あはがり」を唄う。

また、南海日々新聞社から「ピアノと島唄のコラボレーションという新しい手法で島唄を知らない人々にも唄の深みと『奄美』を広めた」功績により第35回南海文化賞を贈られる。

2012年の「かなしゃ 愛のうた」、2014年の「よいすら節」に続き、2016年8月「南ぬ風（ふえいぬぶるーす）」を発表。

ピアノのみならず様々な民族楽器、ミュージシャンとのコラボレーションで島唄を唄い、奄美島唄と自身の可能性を広げ、その世界を深め続けている。